



負けから学ぶ

校長 鍋木 隆

第99回全国高等学校野球選手権大会いわゆる「夏の甲子園」で、花咲徳栄高等学校が埼玉県勢として悲願の初優勝を果たし、深紅の大優勝旗を手に入れました。圧倒的な攻撃力で頂点に立った花咲徳栄高等学校、野球ファンだけでなく県民あげて、その快挙に興奮し、感動した今年の夏でした。

ところで、出場49校がトーナメントで優勝を争った「夏の甲子園」、その試合数をご存知でしょうか。48試合です。計算方法は、「49-1」。理由はこうです。トーナメント方式の場合、優勝校は全勝ですから負けを知りません。しかし優勝校以外は、必ず1回だけ負けます。トーナメント方式では負ければ次の試合に進めないの、2回負けるチームはありません。つまり、1つの試合で負けチームが必ず1つ決まるため、試合数は負けチームの数と同数となります。だから、出場校数から負けを知らない優勝校数1を引けば試合数を求めることができます。

勝つために練習に明け暮れ、臨んだはずの大会ですが、地方大会を含めると、3839校のうち、勝って終わるのは全国優勝の1校のみ、あとの3838校は、負けて終わるのです。酷なものです。中には、幼い頃から続けてきた野球生活にピリオドを打つ選手も少なくありません。それでも、野球に打ち込んできたことを誇りに思い、人生の糧にして生きていく高校生がたくさんいます。つまり、「試合の負けが、これまで取り組んできたことを否定するものではない」ということです。負けた悔しさが次のモチベーションとなり、負けを分析することで課題が明確になり、それを克服することが次の勝ちにつながります。重要なのは「負けから何を学ぶか」「負けからどう成長するか」ということだと思います。花咲徳栄高等学校も、昨夏の甲子園は、優勝した作新学院高等学校（栃木県）に敗れて終わりました。涙する3年生の姿に「先輩の悔しさを晴らす」と誓い、一年間、努力に努力を重ね、つかみ取ったのが今回の優勝です。

野球を例にあげましたが、他のスポーツや芸術等の文化活動でも同じです。もっと言えば、全ての人の人生においても、同様のことが言えるのではないのでしょうか。考えてみれば、人生に、失敗や負けはつきものです。全てがうまく行き失敗や負けを知らない人など、ほとんどいません。逆に、挫折を味わったことのある人の方が強いし、人の気持ちが分かるともよく言われています。

ややもすると、大人は自分の人生経験から、子どもに対し失敗しないようにレールを敷いてあげたくくなります。とりわけ、親は我が子に対してそうなりがちです。私も人の親ですから、その気持ちも分かるし、それが親心というものなのかもしれません。しかし、本当に大切なことは「子どもが失敗したり負けたりしても、それにくじけることなく、それを次にどう生かすか」をアドバイスしていくことなのではないのでしょうか。



【 女子バレー部・練習中の1コマ】

学校教育目標

輝く命 生きる力

目指す生徒像

目指す教師像

目指す学校像

気迫ある生徒

気概に満ちた教師

活気ある学校

小・中一貫いじめ撲滅会議①を実施 7月21日(金)

大宮東中学校図書室を会場に、大宮小学校・大宮東小学校児童会代表、大宮東中学校生徒会役員及び学級委員長が集まり「小・中一貫いじめ撲滅会議」を開催しました。各学校で「いじめ撲滅」のために行っている取組の情報交換を行った後、これから行う取組等について協議が行われました。小学校の児童会代表の立派な態度に、東中生は頼もしさを感じていました。いじめを防止するために今後も協力して行動することが確認されました。



熱心に協議を行う東中生

さいたま市子ども会議に参加 8月8日(火)

「さいたま市子ども会議」に生徒会を代表して、3年三枝浩乃さん、2年齋藤明君の2名が参加しました。「小・中一貫いじめ撲滅会議」でまとめられた各中学校区の取組内容の情報交換や「もし、いじめが起きてしまったら何ができるか」などをグループ毎に分かれて協議しました。「さいたま市子ども会議で、自分の意見をしっかりもち、それを主張することが大事だと思いました。学校でも、個々の意見を尊重し、お互いを理解する環境づくりに努めたいと感じました。2年齋藤「昨年とは違う視点でいじめについて考えることができました。いじめで一番恐怖なのは加害者より傍観者なのではと思いました。いじめでは生徒一人ひとりが持っている影響力は大きいと知ってもらうために、生徒会朝礼などで話したいと思います。3年 三枝」



子ども会議での1コマ

とうちゃれ 親子社会見学 8月21日(月)

8月の「とうちゃれ」は、新都心にできた『造幣さいたま博物館』で親子社会見学を実施しました。参加者から「知らないことが多かったので、とても楽しく学ぶことができました。」「親子の共通の話題ができてよかった。」「貨幣を製造する過程を知ることができました。」「体験コーナーがおもしろかった。」などの感想があり、親子で充実した見学会が行うことができました。



博物館玄関にて記念撮影

小・中合同研修会 8月21日(月)

大宮東中学校を会場にして、大宮小学校と大宮東小学校の先生方に集まっていただき、小・中学校合同研修会を実施しました。生徒会の取組報告後、先生たちが小グループに分かれて「授業方法」や「家庭学習の取組」など、小・中学校が統一して行える指導について協議を行いました。大宮東中学校区の先生方が一堂に会する機会なので、協議は大いに盛り上がりました。また、小学校の先生方は、東中生の成長や部活動における活躍ぶりに感動していました。



3校の先生が熱心に話合いました

さいたま市英語弁論・暗唱大会 8月23日(水)

馬宮コミュニティセンターを会場に、さいたま市英語弁論・暗唱大会が開催され、弁論の部には3年生の豊山凌羽君、西塚来輝君、暗唱の部には2年生の杉山莉央和君、徐輔雅さんの4名が参加しました。4人とも夏休み中一生懸命に練習した成果を十分に発揮してくれました。9月16日の東中発表会でみなさんに見ていただきますので楽しみにしててください。



表彰を受ける杉山君と徐さん

さいたま市いじめ防止シンポジウムに参加 8月24日(木)

さいたま市いじめ防止シンポジウムに3年長瀬陽さんと2年児玉ももさんの二人が参加しました。以下感想を紹介します。「他校のいじめに関する取組や、いじめ防止に向けて何をすべきかを学びました。今回学んだことを生かして、生徒会でもいじめ撲滅に向けて行動していきたいです。3年長瀬」「各校のいじめ防止の取組を詳しく知ることができました。自分たちにできることを考え、実践していきたいと改めて思いました。2年児玉」



いじめ撲滅のために行動しよう

海外派遣帰国報告 3年 川井康平

「8月1日から10日までの10日間、日本を離れて南半球にある島国・ニュージーランドへ行ってきました。ニュージーランドで見聞きするのは全て英語(一部マオリ語)、そんな日本とまるで違う環境の中で発見することがとても多かったです。特に、英語での会話は、文法を気にしなくても単語や文節だけでも十分に通用し、肝心なのは伝えようとする気持ちなのだわかりました。これからの人生の宝となる貴重な10日間でした。詳細につきましては、東中発表会で報告します。3年川井」



部活動等の記録 ~栄光を讃えて~

○平成29年度学校総合体育大会県大会の主な結果

陸上競技 1年女子100m走 第3位 猪股佑衣 13'27 関東大会出場
女子バスケットボール 第3位 大会ベスト5 3年 岡田空

○さいたま市硬筆展

推薦賞：2年 三浦桃果、湯谷莉理花
特選賞：1年 尾嶋亜衣奈、木村丹音、木村莉子、小池知鶴、高橋杏佳、細野倫良、水越彩也香
2年 相田紗貴、青柳真優、上山琴羽、小松映理、平野友香、渡辺莉月
3年 秋山涼乃、河原塚咲、齋藤はな、鈴木佳乃、寺田理子、長瀬陽、村山碧
優良賞：1年 秋元心那、梅戸彩華、小田桐愛実、佐藤誠希、長岡慶司
2年 今田菜桜、加藤里奈、児玉ももこ、西野杏望
3年 相澤美葉、宇田川明泉、鶴野楓奈、田澤柊介、玉山寧桜

○吹奏楽部 第58回埼玉県吹奏楽コンクール南部地区大会 金賞

第58回埼玉県吹奏楽コンクールBの部 銀賞 西関東大会出場

西関東大会 日時：9月16日(土) 会場：所沢市民文化センターミュージズ

※同大会出場のため、東中発表会での吹奏楽部の演奏発表は行いません。

○第54回関東地区中学生「海の絵画コンクール」

銅賞：1年 君波あこ 佳作：1年 君波にこ、1年 樋口真菜

○第33回さいたま市中学校美術部展

優秀賞：3年 谷田部愛理、樋口百大 2年 藤本麻央
佳作：3年 小林菜々海、鈴木佳乃、長谷川聖華 1年 青木花愛、君波あこ、君波にこ

○第16回さいたま市英語弁論・暗唱大会 Aブロック

2年生暗唱の部 第2位 杉山莉央和 第5位 徐輔雅 両名ともに中央大会に出場
中央大会 2年生暗唱の部 第5位 杉山莉央和

お知らせ 大宮東中学校ホームページでは、生徒の日々の生活の様子を写真掲載しています。「東中 today」のQRコードを掲載しますので、アクセス手段の一つとして活用ください。携帯・スマホの「QRコード」読み取りアプリで簡単にアクセスできます。